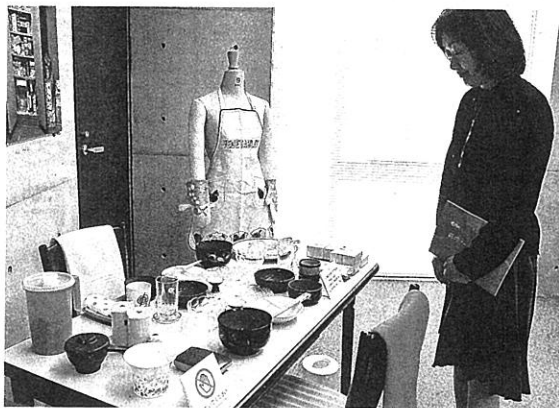


企業宣伝用ティッシュ、弁当箱…



# 時代映し出す 「粗品」800点<sup>53p</sup>

戦中から現代までの「粗品」を集めた展覧会「粗品? 粗品! 時代の空気を映す」が西宮市鳴尾町1の武庫川女子大学芸術研究交流館5階ギャラリーで開かれていた。企業が宣伝などに使うポケットティッシュから、戦中に戦意高揚のために配られた扇子まで、時代を映し出す多様な品約800点を集めた。

## 西宮・武庫川女子大で展覧会

同大付属総合ミュージアム設置準備室が、大阪市の中田静さん(1920〜2009年)から寄贈された生活財約2万点のうち、のし紙や企業名が入った粗品を選んだ。会場には、バターケースやエッグスタンドなど「わざわざ買わないけど、もらったうれしい」という暮らしの便利グッズが並ぶ。高度経済成長期のコーナー

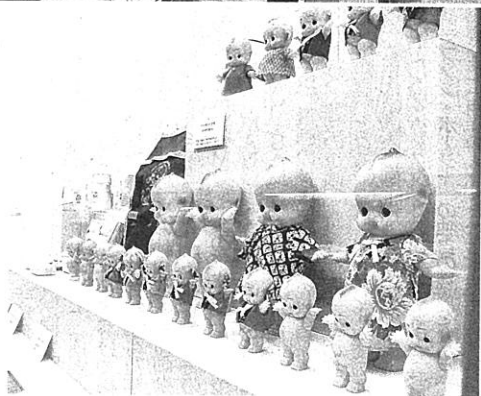
にはボウルや弁当箱など量産が始まったプラスチック製品が並んだ。

また、戦時下で女性らしに配られた扇子には、日の丸や軍歌があしらわれ、粗品が戦意を高める役割を果たしたことが分かる。同室主任の樋口温子さん(28)は「粗品というキーワードを

通して戦後の日本の発展とその影にあった犠牲を考えてもらえれば」と話す。

12月5日まで(土、日曜、祝日休館)。入場無料。午前10時〜午後4時40分。28

## 戦意高揚の扇子も



④時代を映す粗品が並ぶ会場  
⑤銀行の粗品として配布されたキュービ人形(いずれも西宮市鳴尾町)